1　沖布目北遺跡（おきぬのめきたいせき）

所 在 地：坂井市春江町沖布目

調査原因：主要地方道丸岡川西線福井港丸岡
インター連絡道路改良工事

調査期間：令和３年５月～12 月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：6,430 ㎡

時　　代：縄文時代中・後・晩期、弥生時代中期

位置図（S=1/50,000）

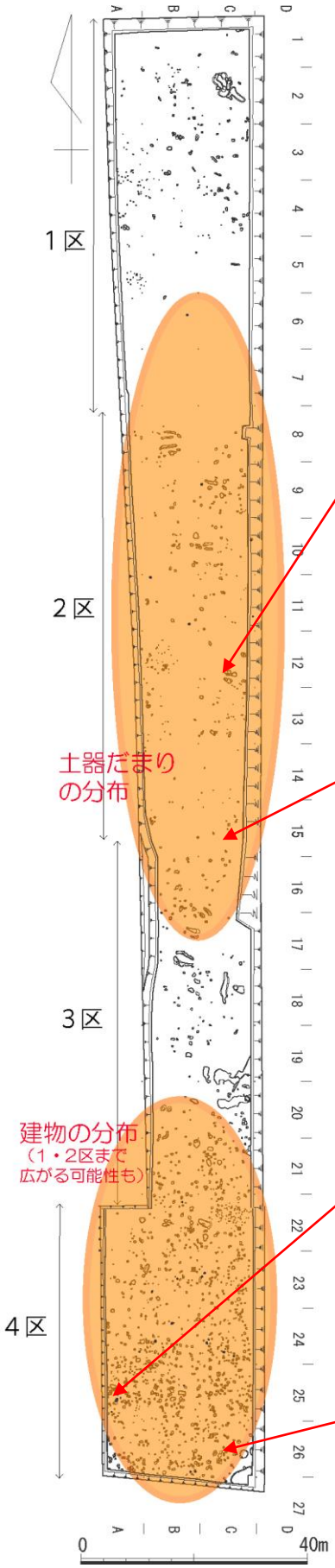
遺跡について　遺跡は坂井平野を北西に流れる兵庫川の左岸に位置します。坂井平野は、九頭竜川・竹田川・兵庫川などの河川によって形成された沖積平野であり、遺跡は沖積平野の旧微高地から低地にかけて立地しています。発掘調査は北から順に１区から４区に区割りして実施し、北にいくほど基盤層が低くなります。調査区では、現・旧耕作土の下に縄文時代の遺物包含層（ほうがんそう）（厚さ 40～80cm）を確認しました。また、基盤層上および遺物包含層上の２面で遺構の検出を行い、縄文時代の建物や埋設（まいせつ）土器、土坑（どこう）、土器だまりなどの遺構を検出しました。遺物包含層からは、縄文時代の多量の土器や石器が出土したほか、４区では弥生時代の遺物包含層も確認しています。

主な遺構　発掘調査の結果、縄文時代の建物５棟以上、埋設土器 28 基、土器だまり約 60 基、河川などを確認しました。竪穴建物や炉を確認することはできませんでしたが、環状にめぐる柱穴（ちゅうけつ）列を３・４区で複数確認したため、建物群の存在を推定しています。また、埋設土器はこれらの建物や柱穴に近接しており、底部穿孔（ていぶせんこう）して埋設される例が多いです。これらの遺構が３・４区の旧微高地で検出される一方で、１～３区の低地帯では土器だまりを多く検出しています。土器だまりの土器は、小破片の土器が密集して出土していることから、当時の廃棄状態を示しているといえるでしょう。以上の遺構は、縄文時代後期前半を中心とする時期です。

主な遺物　遺物は縄文土器・弥生土器（弥生中期）・石器（打製（だせい）・磨製（ませいせきふ）石斧、石錘（せきすい）、磨石（すりいし）、石皿（いしざら）など）・木製品（柱・加工木など）・土製耳飾りが出土しました。縄文土器は中期後葉～後期中葉、晩期の時期があり、後期前半のものが多いです。（松本泰典）

遺跡遠景（北西から）

４区遠景（北東から）



土器だまり（土器を捨てた状態）

小型鉢（赤い顔料を塗っています）

埋設土器（土器底に穴をあけて埋めます）

建物遺構（長さおよそ４ｍあります）

柱穴群（複数の円形建物プラン）

埋設土器

土器だまりの検出作業

柱穴埋土断面

縄文土器（縄文中・後・晩期）

土製耳飾り（縄文後期）

磨製石斧（縄文中・後期）

打製石包丁（弥生中期）